

者も秤少々出し見せ、不宜秤ハ隱置、或ハ秤所持不致旨申、改不請者も有之候様相聞候、前以相觸候通、守隨方より役人相廻改候節、諸秤不隱置、不殘出し、改請候様可致候、尤紛敷秤ハ、取上候筈ニ候、此旨急度可相守者也、

右之趣、東海道東山道北陸道并丹波丹後但馬都合三十三ヶ國、御料ハ御代官私領ハ地頭より可被相觸候、

寛保四年二月十四日御書付

神善四郎秤相用候國々へ、善四郎方より役人相廻秤改候節、秤數多所持之者も不隱置、不殘出し見せ、改請候様可致候、尤紛敷秤は、取上候筈ニ候、此旨急度可相守者也、

右之趣、五畿内山陽道南海道西海道山陰道之内、因幡伯耆出雲石見隱岐并壹岐對馬、都合三十五ヶ國、御料ハ御代官私領ハ地頭より可被相觸候、

寛保四年二月日御書付

神善四郎名代之者、爲秤改、西三十三國へ相廻り候ニ付、傳馬之儀、寺社奉行證文相渡遣候間、無滞可差出旨申渡候様可被致候、右國々之儀ハ、寺社奉行可被承合候、

二月

延享五年五月十八日御書付

守隨彦太郎手代共秤改國々へ相廻り候節、所々に於てかさ高成仕形、如何成儀共相聞候、以來右體之儀有之候ハ、彦太郎儀、急度御答可申付條、相慎入念申付候様、可被申渡候、

右之通、御細工頭へ申渡候間、爲心得可被達候、尤所々におゐて、かさ高成仕形、如何成儀共有之候ハ、領主より可申出候段、向々へ可被達置候、

五月